

5.3 科学研究費など外部資金

- a. 研究課題
- b. 研究代表者
- c. 金額

(1) 日本学術振興会

(1.1) 科研費新学術領域(研究領域提案型) 太陽地球圏環境予測: 我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成(代表: 草野完也)

(1.1.1)

- a. A02 太陽嵐の発生機構の解明と予測
- b. (代表) 一本潔
- c. 平成 27 年-31 年 総額 125,400,000 円(平成 29 年度 30,940,000 円)

(1.1.2)

- a. A04 太陽周期活動の予測とその地球環境影響の解明
- b. (代表) 余田成男、(分担) 浅井歩
- c. 2017(平成 29) 年度: 900,000 円(浅井分配分)

(1.1.3)

- a. A04 太陽周期活動の予測とその地球環境影響の解明
- b. (代表) 余田成男、(分担) 上野悟
- c. 2017(平成 29) 年度: 3,100,000 円

(1.1.4)

- a. コロナ磁場モデリングに最適なスペクトル線の選定
- b. 阿南 徹
- c. 1,950,000 円

(1.2) 基盤研究

(1.2.1) 基盤研究 (B)

- a. 太陽白色光フレアの解析に基づく、スーパーフレア星の磁気活動機構の解明
- b. 柴田一成
- c. 平成 28 年-30 年(総額 13,600,000 円) 平成 29 年度: 3,300,000 円

(1.2.2) 基盤研究 (C)

- a. 地表層補償光学に基づく超広視野太陽像回復の効果
- b. 代表: 三浦則明(北見工業大学) 分担: 上野悟
- c. 100,000 円

(1.3) 若手

(1.3.1) 若手 (B)

- a. 太陽衝撃波の観測的研究による、コロナ質量放出の発生源の解明
- b. 浅井歩
- c. 平成 27 年-29 年 総額 2,470,000 円(平成 29 年度: 900,000 円)

(1.3.2) 若手 (B)

- a. 多波長同時偏光分光観測で明らかにする太陽彩層大気の磁気流体波
- b. 阿南 徹
- c. 平成 27 年–29 年 総額 4,290,000 円 (平成 29 年度: 260,000 円)

(1.4) 特別研究員 奨励費

(1.4.1) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. 相対論的な領域を含む磁気駆動されるフレア現象の統一的な理解
- b. 竹重 聡史
- c. 1,100,000 円

(1.4.2) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. スーパーフレア星の観測から迫る、太陽型恒星の磁気活動とダイナモ理論
- b. 野津湧太
- c. 1,100,000 円

(1.4.3) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. 太陽スピキュール観測で探るコロナ加熱: 波動は加熱に寄与しているか
- b. 鄭 祥子
- c. 1,000,000 円

(1.5) ひらめきときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ KAKENHI

- a. 太陽活動の謎を探る
- b. 柴田一成
- c. 329,000 円

(2) 科学技術振興機構 (JST)

(2.1) 日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」

- a. 将来の地上大型天体望遠鏡のための技術と装置開発
- b. 代表: 一本潔
- c. 2,178,269 円

(3) 京都大学

(3.1) 平成 29 年度 融合チーム研究プログラム SPIRITS 2017

- a. 日本・ペルー・サウジアラビア 高速太陽爆発監視システムの構築とその活用
- b. 上野悟
- c. 4,170,000 円

(4) 国立天文台

(4.1) 委託研究 (大学支援)

- a. 太陽観測を通じたペルーとの天文学学術研究交流: 分光器による高速太陽爆発追跡システムの構築とその活用
- b. 柴田一成
- c. 500,000 円

(5) 光・赤外線天文学大学間連携事業

- a. 大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築事業
- b. 柴田一成
- c. 13,500,000 円